

# 令和元年度学校関係者評価

中央調理製菓専門学校静岡校 製菓衛生師科・上級パティシエ科

## 令和元年度学校関係者評価委員

### ■保護者

製菓衛生師科2年生 古屋 萌花 保護者 古屋 好浩 様

製菓衛生師科2年生 溝口 茉椰 保護者 溝口 昌宏 様

### ■企業関係者

レ・トゥーヌソル 山田 辰巳 様

### ■他校関係者

中央歯科衛生士調理製菓専門学校

高度調理経営学科長 高橋 渉 様

## 1. 教育理念・目標

【自己評価結果】		平均
1	教育理念並びに教育目標が明確に示されているか。	A
2	教育目標は卒業時の到達が読み取れるものになっているか。	A
3	教育理念並びに教育目標が教職員・学生に浸透しているか。	A
4	組織での目標設定が適切にされ、実行できたか。	A
5	鈴木学園クレドは教職員に浸透し、実践されているか。	A
【現状の問題点】		
職業教育の効果を高めるため、学修の意義を理解させるためには教育目標の浸透が欠かせないが、実際には難しい。しかし全教員がそれを大切に日々教育していることでこの成果が出ていると思う		
【改善のための方策】		
教員間で共通の認識を常に確認していく。取り組みに対して目標設定にズレがないか、方向性が間違っていないか、早い段階で確認をして、さらに振り返りの時間を作る。		
【関係者評価】		
理念の浸透がようやく高評価となった。行事前の目的やねらいの説明効果が出ている。		

## 2. 学校運営

【自己評価結果】		平均
5	目標を達成するための事業計画が策定されているか	A
6	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	A
7	情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	A
8	就業規則などの諸規定は適切に整備されているか。	A
9	組織内の連携は適切に図られているか。	A
10	上司の指示は適切にされているか	A
11	上司は提案を受け入れてくれているか	A
12	職場内での教職員教育・指導は十分なされているか。	A
13	BSCは適切に活用されているか。	A
【現状の問題点】		

昨年に比較して大きく改善されている項目が多い。規程の整備に評価が下がっているが、すべての項目で高い評価になっている。

#### 【改善のための方策】

引き続き働き方改革を進めていくが、学生指導や仕事の質を落とさないようにする為に仕事の効率化や密度を濃くする事を学科内で十分に話し合い取り組んでいく。

#### 【関係者評価】

就業規則が整備されつつある。「入口の募集、中の学校生活、出口の就職社会」この確立ができてきている表れだと思ふ。教育の質を高めると満足度上がり、充実感・達成感が出てきて企業に売り込める仕組み。キャリアパスをイメージさせ、2年間でどこまで学べるのかが分かってくるとより良い仕組みとなる。募集と学校生活と社会のギャップが大きすぎるのも良くない。効率と仕掛けることと満足度のバランスが大切。

### 3. 教育活動

#### 【自己評価結果】

		平均
13	授業評価の実施・評価体制はあるか	A
14	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	A
15	資格試験の合格率は他校と比較して妥当か。	A
16	資格試験の不合格者の対策は適切に行われているか。	A
17	関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	A
18	目標に到達しない学生には対し適切なフォローがなされているか。	A
19	職員の能力開発のために研修等を実施若しくは派遣しているか	A
20	シラバスは十分に検討し作成されていたか。	A
21	シラバスの内容見直しについて教員間で検討されていたか。	A
22	教務の問題について、組織内で適切に話し合われているか	A
23	十分に余裕を持って教育行事の準備が出来ているか。	A
24	学生による学校評価を反省し、事後の教務を改善しているか。	A

#### 【現状の問題点】

これまで取り組んできた、他にない新しい職業教育が大きな成果を上げていることが実感できている。

#### 【改善のための方策】

資格取得は専門学校に2年間通った証であることを分かりやすく説明する。1年次から資格取得に対する意識をしっかりと植え付けていける環境づくりをする。年度初めにシラバスを組むが、本当に教育効果が上がっているのか先を見据えて常に話し合う。

#### 【関係者評価】

現場に近づけて設備投資、これからのIT化に向けての技術と知能を身に付けていく必要がある。色々な学生に根気よく向き合う時間をとる。時代にマッチした実習メニューを組む。学校で現場を学んでいると社会に出てからのギャップが少ない。

### 4. 学修成果

【自己評価結果】		平均
25	就職率の向上が図られているか	A
26	退学率の低減が図られているか	A
【現状の問題点】		
就職率だけでなく、就職先企業の質、離職率の低さも格段に向上している。退学率も低くなっているのは依然問題になった「意欲が高くない」「自分の能力に自信がない」学生にも適した教育が行われている証左と考えられる		
【改善のための方策】		
専門学校に入学する意味は、製菓の分野での知識、技能を習得することにあることを意識させるよう常に説明していく。就職先のレベルを認識させて意識向上を図っていく。 退学不安要素のある学生に対して自信を持たせるよう仕向けていく。		
【関係者評価】		
役割があり、自信がつき、責任感が出てくる。すると退学率減につながる。班編成については三島校でも色々と試しているが、なかなか上手くいかない。レベル分けしてみたり、仲良しで組んでみたりしている。結果、仲良しのグループで組むことにより、文句も減り、もめごとはなくなってくる。		
5. 学生生活支援		
【自己評価結果】		平均
27	学生相談、カウンセリングに関する体制が整備・機能しているか。	A
28	各学校行事について、適切な事後反省を行い次回に活かしているか。	A
29	防犯・防災訓練の実施・防災計画の作成等、不法侵入・災害に対する整備は万全か。	A
30	進路活動に関する支援が整備され、機能しているか。	A
31	中途退学の理由、実状を適切に把握し、教職員で共有しているか。	A
【現状の問題点】		
学生相談も新しい方法を模索するなどの対策が取られている。		
【改善のための方策】		
学生相談での内容を教員間で情報共有し、適任者からのアドバイス、指導ができる環境を作っていく。貴重品に関して自己管理の徹底を促し自己責任の意識を持たせていく。		
【関係者評価】		
不法侵入者に対する学生への指導も行う必要がある。セキュリティ対策として何か考えておくべき。		

【自己評価結果】		平均
32	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	A
【現状の問題点】		
毎年新しい教育の実現のためにしっかりと資金を投じた教育環境の整備がされ、同時にそれを活用するカリキュラムも考えられている。		
【改善のための方策】		

教育効果を検討し、必要な機器は予算に組込んで頂けるようする。

**【関係者評価】**

毎年、色々な教育ができるように機材を購入している。

**7. 学生の受け入れ募集**

**【自己評価結果】**

		平均
33	学生募集のための広報資料の表現・内容並びに広報活動の方法、時期は適切か。	A
34	入学案内(パンフレット)には志願者が必要とする情報が掲載されているか。	A
35	体験入学の時期、回数、内容は適切か。	A
36	入学者選抜の時期、方針、方法は適切か。	A

**【現状の問題点】**

常に新しい取り組みが続けられている。特に昨年はオープンキャンパスの内容を大きく変更したことで参加者の満足度が高まっている。

**【改善のための方策】**

アフターフォローは十分か検討し、場合によっては電話連絡などのアプローチをする。ガイダンスでは、その学校に適した教員と適した説明をしていく。

**【関係者評価】**

広報や募集で今までとは違う対策を行っている。新入生の確保に努めていきたい。

**8. 財務**

**【自己評価結果】**

		平均
37	・中長期的に所属学科の学費納入基盤は安定しているといえるか	A
38	・学科で策定した予算・収支計画・執行は有効かつ妥当なものになっているか	A

**【現状の問題点】**

学生数が全国的に減少傾向にある現在、無駄のない財務管理が求められる。

**【改善のための方策】**

入学者の減少、退学者により不安定な部分がある為、引き続き入学者獲得と退学者減少を強く意識していく。学科内での予算の意識を高め、同時に経費削減に努めていく。

**【関係者評価】**

お金がかかる教育の為、学生数が減ると安定しない。将来的に不安が出てくる。保護者目線でいくと必要のないパンフレットが何度も送られてきたりといきすぎるのは学費から出ているのかと心配になることがある。(この学校に限らず、他でも)

## 9. 法令等の遵守

【自己評価結果】		平均
39	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	A
40	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	A
41	個人情報保護法を遵守しているか。	A
42	各種ハラスメントに対する防止・対応策が整備されているか。	A

### 【現状の問題点】

ハラスメントに関しては委員会が形骸化しないように校内での活動に注力して欲しい

### 【改善のための方策】

外部に情報を流出させないという個人情報への意識を強化する。ハラスメントへの意識を各教員が高めていくようハラスメント委員会を通じて意識の共有をしていく。

### 【関係者評価】

学生同士、学生と教員、学生と研修先などどこでハラスメントが起こるか分からない。学校内の相談しやすい環境が必要ではないか。啓蒙活動やハラスメント委員会があるという周知をする。